日本福祉大学 2020 年度科研費獲得支援制度　研究報告

研究代表者　所属・職：社会福祉学部・教授

氏　　名：篠田　道子

研究課題名：多職種で取り組む神経難病患者の入退院支援の指標の作成

研究の概要

本研究は、多職種で取り組む神経難病患者の入退院支援の指標を作成し、信頼性と妥当性を検証するものである。すでに３つの調査（文献調査、インタビュー調査、予備調査）を実施し、一定レベルの信頼性と妥当性を担保した 34 項目の指標を生成した。本研究では、調査対象を東海３県の医療機関と在宅サービス事業所に広げ、信頼性と妥当性の検証を行い、多職種で取り組む神経難病患者の入退院支援の指標の完成を目指すものである。信頼性は内的一貫性等の算出、妥当性は探索的因子分析と確認的因子分析を行う。さらに先行研究で確認されている退院支援尺度との相関を検証する。

次年度申請予定の科研費では、作成した指標を使って全国調査を実施するとともに、疾患別・職種別・地域別に詳細に分析することで、神経難病患者の入退院支援の現状と課題を明らかにし、病院から在宅、在宅から病院への円滑な支援をするための要因分析を行う予定である。

達成状況・成果内容

【達成状況・成果内容】

神経難病患者の入退院支援指標は、専門職への質的調査の結果より作成し、34 項目の精選を行ったことで一定の内容妥当性が確保されていると考える。探索的因子分析では、各因子のクロンバックα係数は 0.72~0.86 と当該指標の信頼性は確保されているといえる。因子として、①病院スタッフと在宅スタッフとの協働、②退院後の生活を見すえた支援、③病状の変化についての話し合い、④多職種で患者・家族の気持ちによりそう、⑤退院後の支援体制の整備が抽出された。病院スタッフと在宅スタッフの多職種が継続して、患者・家族の気持ちによりそいながら、退院後の生活や病状の変化をみすえた支援体制を作ることが、具体的に示されたことは、意義があるといえる。

さらに調査対象を東海３県の医療機関と在宅サービス事業所に広げ、信頼性と妥当性の検証を行い、多職種で取り組む神経難病患者の入退院支援の指標の完成を目指す予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大による、医療機関の病床逼迫のため、調査対象を拡大することはできなかった。

神経難病は進行性疾患ゆえに予後不良で、入退院支援とともに終末期ケアを同時に実施することも多い。患者・家族の意思を尊重しながら多職種で支える仕組みを今後の研究課題としたい。

【研究成果発表】

2020 年 11 月 20 日に開催された「第 25 回日本難病看護学会学術集会」と「第 8 回日本難病医療ネットワーク学会学術集会」の合同学術集会 （Ｗｅｂ開催）に、演題を発表した。テーマは「神経難病患者の入退院支援における指標の構成要素について－専門職への実施状況調査から－」である。